



大倉 俊氏
ノエビア
取締役副社長

リレートーク



後藤 信夫氏
帝国データバンク
取締役社長

#146

音楽の旅

文化・芸術よりスポーツ優先、アウトドア派を自認する私が、今年6月「バッハへの旅」というドイツへの音楽ツアーに参加しました。

クラシック音楽と接するきっかけは、企業の記念コンサートやチャリティコンサートでしたが、2005年8月にはザルツブルク音楽祭に妻や娘とともに参加しました。ウィーンフィル、ベルリンフィルのコンサートや、ブラック・タイで鑑賞したオペラなど、忙しい日々から解放され、心休まる時間を過ごすことができ、とても素晴らしい体験となりました。

その翌年に参加したのはスイス・ルツェルン音楽祭です。日中は風光明媚なスイスの自然を満喫し、夜は連日、ゲヴァントハウス管弦楽団、バンベルク交響楽団等々のクラシック音楽を堪能しました。

そして今年はバッハフェスティバルです。そもそもこのツアーを知ったのは、妻があるコンサートの会場で手にしたチラシでした。ちょうど結婚30周年の節目でもあり、ぜひ参加しようということになりました。

今回のツアーでは、バッハの生まれたアイゼナハを皮切りに、彼がオルガニストとして4年間務めたアルンシュタットのバッハ教会、1年間務めたミュールハウゼンの聖ブラージュウス教会、5年にわたり宮廷楽長を務めたケーテン城などゆかりのある場所を訪れ、十数台ものパイプオルガンの音色を堪能しました。ほとんどの教会ではカントール（楽長）がパイプオルガンを演奏しましたが、静かな教会の中に響き渡るパイプオルガンの音は、何となく物悲しくもあり、力強く心に語りかけてくるようにも感じられました。

ライブチヒで開催されていたバッハフェスティバルでは、最終日に聖トーマス教会で伝統のカンタータ礼拝に参加しました。夜は同じ教会でミサ曲口短調の演奏会があり、特に聖トーマス教会合唱団とバルタザール・ノイマン合唱団の歌声に酔いしれました。言葉では表すことができないほど美しく、まさに心が洗われる思いでした。

雑事に追われて自分自身を見失いがちな毎日ですが、音楽の旅は私の心を豊かに、そして十分に癒してくれるものです。また、こうした旅を通じて、文化・芸術の素晴らしさや奥深さを改めて感じることができました。

次回は 白石 達氏（大林組 取締役社長） にご登場いただきます。